

【教育実践報告】

夢と気概を持って、教育の世界に飛び込んでください

阿部正直

1 はじめに

私は平成18年度から平成26年度までの9年間、教職課程の「教育実践研究1E組」(現代社会・倫理、主に3年次生)と、「生徒・進路指導論A・B組」(平成23年度はC組も、主に2年次生)を担当し、前者では約190名(約40%が一般学生、60%が野球部員で母校で社会科教師と野球指導者を目指している学生が多かった。また、最近では、東浜・九里・嶺井・山崎・藪田の諸君がプロ野球で活躍している)、後者では約490名の学生とかわって来ました。この中から、少なくない学生が教育現場に巣立っていき、採用条件が恵まれていない中でも苦勞しつつも頑張っています。この9年間の学生の授業への取組みについては、総合評価の平均が「教育実践研究」では4.7、「生徒・進路指導論」では4.6であったので、概ね満足感があったようです。この「報告書」(冊子)は、これから教職を目指す学生諸君が目を通すであろうから、これまでの授業の反省点や改善点、またアドバイスを記すので参考にして欲しいです。

2 「教育実践研究1E」(現代社会・倫理)を振り返る

- ① この授業では、主に政治・経済・国際社会・倫理の4分野で学習指導案を作成し、更に密案(授業シナリオ)を作り授業のイメージをよりはっきりさせ、教壇実習(模擬授業)を実施し、4年次の教育実習に備えることでした。学生数が多かった関係で4分野の教壇実習はかないませんでした。毎年補講を多く行うことで実践経験を重ねました。また、読書レポート2回、公民新聞の作成、時事ニュースの発表、「新聞から時代を読む」と題して時々の政治・経済・社会・国際問題等を授業の中で扱い、感想や意見交換を行い教科に膨らみを持たせました。
- ② 学生諸君の取組み状況：本気で教職を目指す学生は、取組む姿勢はすこぶる良く、学習指導案の作成に工夫がみられ、関連資料やワークシートなども用意して生徒に分かりやすい授業にしようと努力していました。
- ③ 学習指導案の作成にあたっては、教科書を何度も読みこんで学習内容を整理し、教師はそれをしっかり理解していること。指導方法を組み立てること(講義・調べさせる・考察させる・話し合いさせる・まとめる等をはっきりさせること)。資料(補充資料・新聞記事・インターネット記事等)やワークシート(プリント)を準備すること等。
- ④ 教壇実習にあたっては、何よりも学習指導案に沿って進めること。授業の始めを大切にすること(挨拶・欠席の確認・クラスの雰囲気への把握等)。生徒への発問と生徒からの回答(解答)に留意すること(正反応連結授業にならず誤答を大切にすること)。生徒とのやりとりを多く取り入れたい(教師一人でさっさと進めない)。授業にメリハリをつけ山場では声も大きくしてこだわりを持つこと。話し合いをさせる場合は話し合いのポイントを明確に指示すること。生徒からの難しい質問には曖昧な答え方を

しない。

- ⑤ 板書事項を整理し板書のタイミングを考慮する（色チョーク等の利用。また、チャートを作成しマグネットで貼るのもよい）。次の授業へのつなぎをしておくこと。遅刻や教科書忘れ、私語や携帯などの事態が生じた場合の指導を考えておくこと。生徒との関係を重視し、常にコミュニケーションづくりに留意すること（良い関係性の上に授業の効果が表れる）。また、常に生徒を大事にしプライドを傷つけないことやプライベートには深く踏み込まないこと。自分の指導スタイルを作りたい。
- ⑥ 社会科の指導者の基本的なスタンスは、①デモクラシー（民主主義）を基軸とすること。（日本国憲法の内容をしっかりと理解し発展させる。社会の一員として考え発言していく）。②社会科を通して生徒の成長を援助していくこと、と考えます。社会科教員としてよって立つ位置に迷った時は、この原点を思いだして欲しいです。

3 「生徒・進路指導論A・B・C組」を振り返る

この授業では、教師と生徒との良い関係（信頼関係）が授業効果を生み出し、教育効果を増進させるという認識のもとに、教師のコミュニケーション能力を向上させるための理論と具体的な方法（技法）を学びました。マズローの欲求階層説やトマス＝ゴードンの「教師学」（T E T）をベースにしながらか、「聴く」（能動的な聞き方）、「伝える」（わたしメッセージ）、「対立を解く」（WinWin法）、「教師の影響力」などについて、ロールプレイングなどで実際の場面を体験しました。実践後は、手応えや困難さなどをレポートにまとめシェアリングし、何よりも実践体験を重視しました。また、読書レポートで広い視野から教育を捉える作業を行いました。進路指導の授業では、主に中学校での進路指導の実際を学び、キャリア学習の視点と、教師と生徒（保護者も）の信頼関係の必要性を学びました。

この授業に関する学生諸君の感想です。（3名）

- ①教師は本当に忙しい仕事だ。授業をやり、生徒とふれあい生徒の成長を促す、希望の進路に向けて背中を押してやるなど、すべきことが沢山あることが分かった。私が特に大変だと感じたのは“いじめ”についての対応だ。この授業で実際に体験してみたが、相手を配慮した言葉選びに苦労した。また、生徒に対して自分の気持ちの伝え方や、相手に直して欲しいところを指摘するテクニックなどを学び、本当に通ずるのか疑問を持つものもあるが、現場に立った時に使えることを沢山学べた。この授業で学んだことを教師の根幹とし、これからの教職課程で更にその根幹を太くしていきたい。また、一人の人間としてもっと学ぶことに積極的になろうと、この授業を通して考えさせられた。
- ②この授業で得たことは、これからの対人関係で必ず役に立つと思った。学んだことを実際にロールプレイを行うことで難しさを感じた。しかしその反面、より学びたい、上手になりたいと思うようになったことで学習意欲が上がったと思う。また、新聞記事で紹介された最近の親子や教師と生徒間で起きた事件について学び、他者と意見を交換することに関しては、生徒と近くで関わる教師には大きな責任があるんだと強く感じた。この授業では、コミュニケーションの方法、そして相手との問題解決について学べたので、これからの対人関係に必ず活かしていけると思った。まだまだ知識不足、実習不足なのでしっかりと復習し、学んだことを身につけていきたいと思う。
- ③この授業では、教師と生徒のコミュニケーションの取り方や教師が身につけるべきもの

を学びました。「能動的な聞き方」や「わたしメッセージ」では、実際にグループでロールプレイを行うことで現場に出る前の良い練習になりました。特に“いじめ”問題を取り上げた時は、生徒への対応が難しく困ってしまいました。でも実際そういう状況に立たされたら、冷静かつ的確に対応しなければならないと実感しました。授業の中で学んだことは多いけれど、その中でも特に、「生徒を指導する前に、まず教師が自分のことを十分に理解していること」が大切だと学びました。

4 生徒と信頼関係をつくるために、現場で心がけたいあれこれ

(公立中学校での体験からのアドバイス、順不同)

- ① 生徒指導、学級経営のスタートは1対1の対話から、そしてその積み重ね。学級経営が困難になればなるほど1対1の原点に戻ること。学級全体を一気に変えようと投網を掛けるような指導は避けたい。聴衆に話し掛けるな、一人ひとりと対話せよ。
- ② よい反応や応え、見返りを期待しない。無視・無反応でも気にしない。明日はきっと反応が返ってきます。
- ③ 朝一番の出会いを大切にしたい。その日の最初の顔つきや雰囲気をつかむと、生徒の心の内を覗けるし繋がりをもちやすい。
- ④ 教師側からの挨拶・声かけ。「ありがとう」「うれしいね」「助かったよ」など、教師の肯定的な気持ちを伝えよう。ユーモア・冗談・明るい話題が必要。(冗談でも生徒の自尊心を傷つけないよう留意する)。
- ⑤ 生徒を決めつけず発展的にとらえること。今日はダメでも明日、明後日に期待する。
- ⑥ 教師としての顔と同時に、一人の人間として触れ合うことが求められる。肩肘張らずに等身大の自分で生徒に対応していくことが大切。
- ⑦ 相性の合わない生徒がいるのも現実。きっと生徒も同じ。意識して教師から対応を。
- ⑧ 話せば話すほど、知れば知るほど相手を受け入れられるし好きになれる。知らないときと冷淡・批判的・攻撃的になりがち。
- ⑨ 「問題が起こらないように」と構えるより、「問題は早く起きたほうがよい」と考えたほうがよい。先送りせず早い段階で、教師と生徒・親で向き合うのがよい。
- ⑩ 生徒一人ひとりの状況・情報を沢山インプットし継続して関心を持つこと。